



こんにちは♪

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!

民主苦小牧号外
2026年
2.8
No.1128



知ることこそ選挙

選挙を通じて、知ることの大切さを強く感じました。対話をする高市首相は人気があります。理由を聞くと、「女性だから」「笑顔がいいから」「ハキハキものを言うから」など。政策や政治家としての評価ではありません。

消費税減税問題では財源論で行き詰まり、首相はついに街頭演説で消費税問題を語れなくなりました。円安が要因で物価高になり国民は苦しんでいます。しかし首相は「円安だから悪いって言われるけれど、輸出産業にとっては大チャンス」などと発言し、大きな批判が起っています。統一協会との癒着も各社が大きく報じました。

そんな時、首相はNHKの党首討論をドタキャンしました。これらの問題を追求されると困るからではないでしょうか。報道番組のコメンテーター玉川徹さんは、「(首

相)自身が、今回の選挙で自身を選んでもらえるかどうか(が争点)と設定している。(NHKの党首討論は)公示後1回しかないチャンス。他の首長との討論は、本来なら国会で行われるべきだと言ってきたが、そうではなく解散をしたのなら、NHKの番組は、すごく大きな機会だった」と発言。そして、「党首討論は、有権者に向けた判断材料の提供になる」強調し、「もう1回党首討論を設定してほしい」と求めています。全く同感です。

国民に党首討論を見てもらえたら、私が聞いた高市首相の人気の理由も変わったかもしれませんね。共産党の田村智子委員長は、「女性だから」「笑顔がいいから」「はきはきものを言うから」に加え、政策も、政治家としても、申し分ありません(笑)。

選挙期間中に、某高校の新聞部から「候補者にインタビューをさせてほしい」と申し出がありました。他党も含め全候補の政策などを聞き新聞に載せるそうです。とても良い取り組みだと思い快諾しました。18歳の有権者が新聞を読み、自分の考えで候補者を選ぶ大事なきっかけになりますね。玉川さんが言うように、これも大事な“有権者に向けた判断材料の提供”です。

私たちも、判断材料の提供になるようにと、チラシを配布していますが、今の公職選挙法では、選挙本番中に配布するチラシの枚数も、配布範囲も限定的です。巧妙な国民の知る権利の制限ですね。選挙をたたかううえで、知る権利はとても重要なことだと痛感します。